

国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（令和6年度第1回）

開催日	令和6年6月18日（火）
場所	百周年中村記念館特別会議室、オンライン
出席者	【対面】麻生委員、鶴飼委員、小笠原委員、高原委員、宮武委員、村上委員（五十音順） 学長、理事（教育、学生担当）、理事（教育接続・連携PF、情報担当）、理事（研究、産学連携、経営戦略担当）、理事（渉外担当）、 理事（コンプライアンス、D&I担当）、工学研究院長、情報工学研究院長、生命体工学研究科長、教養教育院長 【オンライン】有松委員、大庭委員、松岡委員（五十音順）
列席者	【対面】近藤監事、【オンライン】林田監事
会議成立	構成員21名のところ、19名の出席により定足数を満たしていることが確認された。

No.	種別	議題	結果	主な意見
議題1	（審議事項）	令和5年度決算について	原案どおり承認 ※役員会に付議し6月末までに文部科学省に提出する。	
議題2	（審議事項）	国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等について	原案どおり承認	
議題3	（審議事項）	役員給与規程の一部改正について	原案どおり承認	
議題4	（報告事項）	令和5年度自己点検・評価結果の公表について		<p>○成績評価の根拠となる資料の保存方法について質問。電子化しているのか、紙のまま保存しているのか。保存した資料を再度確認することがあるか。5年間の保存期間は長すぎるのではないか。（学外委員） →電子化できるものは電子化し、それ以外は紙ベースで倉庫に保存している。JABEE審査の際に証拠書類として確認することがある。（学内委員）</p> <p>○令和5年度の対象項目は20件ということだが、環境の変化や法令の影響で見直しがあるのか。（学外委員） →本学の自己点検・評価項目は学校教育法で定められた認証評価をベースとしつつ、本学で必要と判断したものを点検項目としている。昨年度の項目数から減少した理由は、点検を効率化するために点検方法が重複しているものを統合したためで、評価と点検の観点は減っていない。（説明者）</p> <p>○来年度からの認証評価基準変更に伴い、自己点検評価基準も変更されるか。また、第3期に比べて内部質保証が重点化されることについての対応状況は。（学外委員） →認証評価基準が変わるので、それに合わせて評価項目も変更する予定。（説明者） →本学では内部質保証会議を定期的に行い、体制を整え、運営全体の質を高める方向で進めている。（学内委員）</p> <p>○成績評価の根拠となる資料の保存ルールを守るだけでなく、5年間保存することの目的やそれをどのように活用するかについても考えるべき。例えば成績評価の根拠となる資料を電子化し、AIを活用して評価を公平に行う方法を分析するなど改善を検討してほしい。（学外委員） →評価項目をデジタル化し、DX化の一環としてデータを活用する計画がある。例えば、学生の留年や学校に来られない理由などをデータ化し、AIを活用して分析し、教育の質を向上させることを目指している。データをうまく活用し、公平な成績評価や教育の質の向上を図る方針で進めている。（学内委員）</p>
議題5	（報告事項）	株式会社kyutechARISEの現状報告		<p>○会社設立後の2か月半の活動の中で、予想しなかった手応えや見えてきた課題などあれば教えてほしい。（学外委員） →実際に営業してみて、交流事業について予想以上に企業から九工大の人材と繋がりたいというニーズが強かった。また、AIやデータサイエンスの研修事業については、企業がDX推進部を作っているが、具体的に何をすべきか分かっていないことが多かった。DXやAIの入門編の提案が必要だと感じている。（説明者） →企業側とのギャップについて、元々予想していたが、それ以上にギャップが大きく、企業が具体的な課題を特定できていないため、科目との連携が難しい。新しい科目の設定を進めているが、企業とのすり合わせが難しく、現場の感覚と人事の感覚の違いに苦労している。これをビジネスに繋げていきたいと考えている。（学内委員）</p>
議題6	（報告事項）	学長方針の遂行状況の報告		学外委員からのコメントは別紙のとおり

議題6 学長方針の遂行状況の報告についての主な意見

各委員（外部委員）からの意見、意見交換は以下の通り

- スピード感、グローバル対応力、アクション力を持って幅広く対応されている。学長のロマン、ビジョン、パッションを実行していくには部隊が重要。各責任者を立てて成果を追求していくにはKPIが大切で、それが弱いと感じる。担当者を決めてKPIを明確にしておくことが大切。
- 事務業務工数の3割削減はすばらしく、全国の大学の参考となるような成果をあげてほしい。女子学生の意欲を伸ばす取り組みも素晴らしいが、女子学生を増やすためにも、特に女子学生の卒業後の働き方やキャリアアップへの支援について、就職先である産業界とも連携して取り組んでほしい。
- 大学のミッションである教育、研究、国際、産学連携やリカレント教育を含む社会貢献について、非常に多角的な事業を展開し多くの種をまいた印象。トップ外交による国際連携や、産学連携の成果として外部資金の獲得も伸びており、財政的な基盤をきちんと維持しながら、今後の事業化など刈り取りについても期待している。
- 世の中のトレンドを先読みし、スピード感を持って攻めの経営を行っているところが素晴らしい。若い人材を育てるうえで、大学の中でどのようなことをやるか、卒業生に対してどういうことをやるかを考えていく必要があるが、彼らはスキルアップ・キャリアアップに対して貪欲で何事に対してもタイパ主義。そのような要望にこたえる形でKyutechARISEを短期間で操業まで進めたことはすごい。
内部質保証についても、評価するためのプロセスを明確化してそれに基づいた評価を外部に発信して透明性を担保しながら、DXを活用した客観的評価をすることで納得感や信頼感を高めていくことができるかについて注視していきたい。
リケジョの方々には大学等で身につけた知識、技術を生涯活かしていくという意欲が高い。そのような女性の学生が増えるような環境整備にも取り組んでほしい。
- プレゼン資料において、これまでの進捗状況、現状の課題、今後の展開とあるが、今までの成果が明確に示されていない。学長のビジョンは素晴らしいが、現場には「やったこと」ではなく、どのような成果が生じたかを徹底的に考えさせて報告してもらうことを浸透させていくことが必要では。
- 教育研究の質の向上については非常に大きな成果をあげたと評価している。メディアにも多く取り上げられ、それは取り組みの成果の証だと思う。また、国際連携も推進し、タイにもサテライトオフィスを開くなど、積極さも評価できる。

- 九工大について大学サイトで調べようと思ったが知りたい情報にたどり着くことができなかった。以前も言及したが、ウェブサイトの縦割りな作りになっており、横断的でイノベティブな大学の情報が伝わらない。国内外に九工大の良さを発信できる重要なツールと認識し、海外の有名大学のサイトも参考にしながら改善を図ってほしい。

- APU との連携は、両大学の弱みを補完しあえる非常に良いマッチングだと思う。人的交流も含め、今後もますます拡充してほしい。何度か提言しているが、地元との連携についてもうまい盛り上げ方を模索してほしい。
メディアリレーションについても検討してほしい。特に報道機関との繋がりを大事にしてほしい。記者懇談会などを通して平時から記者と付き合うことも必要。
一方、学生などをうまく活用しながら SNS など新しいメディアともうまく付き合ってもらいたい。

- 日本の人口が減少している中で、生産性の向上が重要なテーマである。その対策として AI・DX や半導体製造の強化が重要であり、これらの分野に強みがある九工大への注目と期待も高まっている。その中で九工大の特徴を活かしながら、学術的な貢献とビジネスモデル化を意識したプロジェクトが多く実施されており、その成果を期待している。